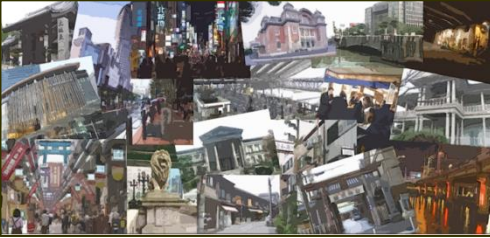


キタ 再発見の会



大阪キタのエリアは従来より交通やショッピングの拠点ということで「訪れる」まちの色合いが強いエリアですが、近年オフィスワーカーやお住まいの方、学生の方も増えており、「働く」、「住む」、「学ぶ」まちの色合いも徐々に濃くなっています。キタエリアで多くの時間を過ごされる方に、是非キタエリアの豊富な魅力を知っていただき、もっと好きになっていただくきっかけとして、この度連続講座「キタ再発見の会」を開催します。近年、まちの機能として職場や学校、自宅以外の「サードプレイス」が必要といわれております。「キタ再発見の会」はキタエリアのサードプレイスになることを目指しています。皆様に気軽に立ち寄っていただき、夜のひとときにゲストトークや意見交換を愉しんでいただければ幸いです。

第5回キタ再発見の会

□テーマ 『主婦の私が再就職した先は、"自分の住むまち"だった』
□講師 一般社団法人うめらく 代表 山田 摩利子 様
□日時 2018年3月20日(火) 18:30-20:30
□会場 都市活力研究所セミナールーム

今回のゲストは、2016年から始まったうめきた2期暫定利用で唯一の市民団体として採択され、その半年後に「うめきた楽市楽座」という4~5千名を動員したイベントを2日間開催。その後2年の活動を経て、今年2月、うめきたを軸にした新しい地域団体「一般社団法人うめらく」をつくった代表の山田摩利子さんです。今後は、うめきたから北区全体に活動を広げ、インターコミュニティ事業を展開していくという活動に込めた思いや、新たな事業展開について熱く語っていただきました。

■講演概要

私の経歴については幼い時はピアノ筋。音楽の先生になりたいと思って音楽大学を卒業。学校の先生になる前に一度社会を経験してみたいと思い、総合商社ニチメンの通信事業会社ニチメンテレコムに就職。携帯電話の機器販売の事業に従事。営業→販売促進リーダー→コンテンツ事業部→マーケティングリーダー→人材育成研修プログラムの立ち上げなどを経験し、27歳にうめきた周辺地域(中津)に自宅マンション購入。その後、出産のため退職。30代前半は子育てに奮闘し2男、1女を出産。自宅でピアノ講師を再開。37歳の時、「食」に関する多数の資格取得を機に、「食と健康」について学ぶ。38歳の時に母の介護を機に地域とのつながりの必要性を痛感。39歳のときに生き方を見直そうと考え、5年以内に自分の法人を持つとう思い始める。自分の住むまち大阪北区で活動を開始し、中津・大淀・中崎町でイベントを立ち上げた。イベントでは、カフェやレストランの一角を借りて「スムージーづくりと音楽のコラボで心身共に健康になるイベント」や、ワインソムリエの資格を持っている中津のリカーショップのオーナーと、「音楽とワインとパンの会」を開催。また、中規模イベントとしては、中崎町では済美小学校跡地の中崎町ホールを借りて「音楽とマルシェ」のイベントを行い、約400名のご利用客があった。



がトイレ、水道、電気、ガスの設備は全くなし。背水の陣で資金を確保した。実績のない団体であったが40団体に出席してもらうことができた。10月に行ったイベントに2日間で5,000人ほど参加していただいた。イベント終了後一旦解散し、ひとりで活動を継続。B地区で菜の花を育てる人たちとコラボして都市農園を始めた。

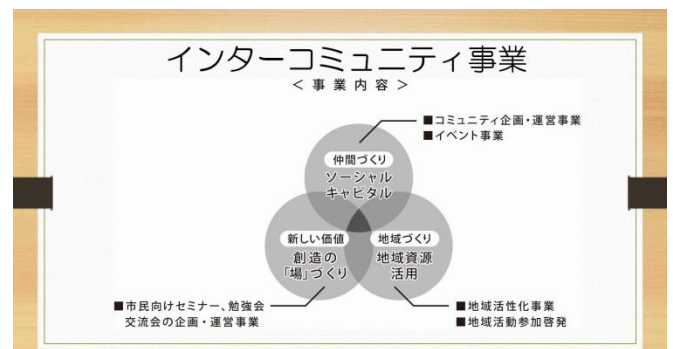


2017年度の暫定利用については、イベント、都市農園の拡充、マルシェを企画して採択。7月には、大淀のASAИ CAFE「Mauloa(マウロア)」がイベントの主体になりタヒチアンイベント「Te HereTAHITI at OSAKA」を開催。また、都市農園では野菜を栽培していたが、その後ホップを栽培する「ウメキタホッププロジェクト」を立ち上げ、ネットで共同購入を呼びかけたところ70株の「株主」が集まり、2017年12月に「ウメキタ産ホップでつくる初のクラフトビール」が完成。



一方で「うめきた」の2期のまちづくりってどんな構想?行政や地域はどんな関わり方をしているのかな?「うめきた」っていったいどこからどこまでの地域をいうの?市民の関わりは?ということが気になり始めた。まちの人に聞いてみても良く知らない。ホームページに「みどり」を活用したイノベーション創出というところに「民」という文字があるが、「民」が関わっている雰囲気が無かった。2015年度の終わりにFacebookでうめきたについて語りませんかと呼びかけたら興味のある人が集まってくれた。その時にうめきた2期暫定利用の応募があることを知り、大急ぎで企画して応募したところ採択された。

採択後、地域課題を解決するイベントを行うことを呼びかけた企画会議には130名ほどの参加があったが、実際にイベントを行うという段



今年2月20日に一般社団法人うめらくを設立した。梅田にはいろんなコミュニティがあるが、同じようなテーマでそれぞれバラバラに動いていると感じてきた。動員や資金、スタッフ、運営などみんないっしょ

にやれば効率がよくなると思って「インターコミュニティ事業」と名付けた。やることは「仲間づくり」「地域づくり」「新しい価値づくり」。「仲

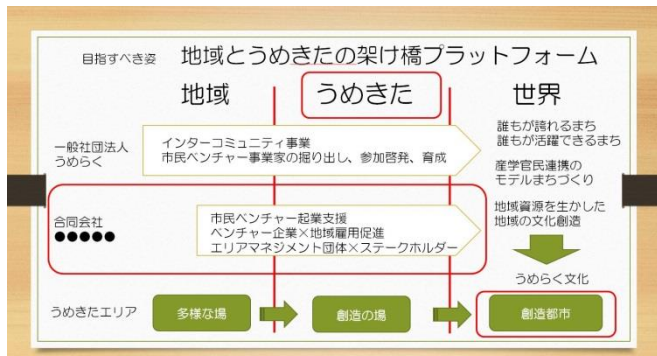


間づくり」はコミュニティ企画運営、イベント。「地域づくり」は地域の活性化のお手伝いや地域活動の参加啓発。「新しい価値づくり」はイノベーションを生む場づくり。

メンバー紹介。私は4月から本格的に一般社団法人うめらくの活動をしていく。副代表は齊藤光典氏（大淀にあるラーメン店「みつか坊主」のオーナー）、同じく副代表の細川裕之氏（オルガワークス株式会社 専務取締役）、企画担当の岸上純子氏（SPACE SPACE 一級建築士事務所共同主宰）、会計担当の松本永理佳氏（リンゴ専門カフェ「elicafe」オーナー）、青少年・子供支援/ママの応援室リーダーの鈴木あゆこ氏（ミュージカル教室「ふるふい〜」主宰）、アーバンファーマーズリーダーの清水敬子氏（主婦）。



うめらく未来ミッションでつながったプロジェクト紹介
 ~ウメキタホッププロジェクトの取り組みと連携~
 市民：ビールが大好きな方がホップを育てたい（川端まさよさん）
 企業：みんなのこかげプロジェクト（高橋電気株）
 うめきたUMEDA I ガーデン（一般社団法人未来教育推進機構）
 学校：防災パーゴラの木造建築（大阪工業技術専門学校）
 店舗：ビールの醸造（ブリュワブ センターポイント）
 行政：うめきた2期みどり基金へ寄附（大阪府）
 他地域行政：ビールづくりでまちおこし（京都府与謝野町）
 国際：ホップ栽培についてシンポジウムで紹介予定（UNESCOパリ本部）



2016年からやってきたことは、地域とうめきたのかけ橋、プラットフォームになるような事業内容。地域がうめきたにかかわる必要があるが、うめきたは地域だけのものではなく、世界に誇れるまちにならなければいけない。一般社団法人うめらくは市民ベンチャーの掘り出しや育成をしたい。そして誰もが誇れる・活躍できるまち、産学官民連携のまちづくり、地域資源を生かした地域の文化創造ということで「うめらく文化」ができればよいと思っている。現在大阪市北区長の上野信子さんは、まちづくりや場づくりを研究されてきた方で、『多様な場をたくさんつくることで「創造の場」が生まれ、社会的価値と経済的価値の両面を持つことで「場」が継続する』と提言されている。創造都市=誰もが活躍できる環境のある都市として、うめきたの未来のまちに期待をし、うめきたのまちづくりに関わりたい。

■質疑応答

（会場）山田さん、とても楽しそうなのですが、楽しく活動するコツはなんですか？

（山田）人が好きなんだと思います。身近に楽しい仲間がいれば、楽しいことができると思う。

（司会）5年前に法人を立ち上げようと思ったのは、やはり醍醐味があると感じておられたのですか。

（山田）会社に勤めていたときは上司に恵まれ役職も順調に上がったが、主婦になると時間に制限があり、子育てがメインなのでやりたいこととやりがいが比例しない。自分のやりがいが感じられる環境を作りたいと思ったのがきっかけです。

（会場）高校生や大学生とラジオ番組制作やイベントを開催している者です。若者たちはそれぞれゆかりのある地域に貢献したい、活性化したいという意識を強く持っています。ところが大阪の高校生たちの「大阪愛」を聞いてみると、五段階評価で2〜3しかありませんでした。全国的に広まっている大阪のイメージに対してこころよく思っておらず、その一員であることに劣等感のような思いを抱いているようです。「大坂」の歴史を詳しく学べば「大阪愛」は増すと考えています。

（山田）是非ともまちあるきのメンバーに入っていたらうれしい。堂島に「国産ビール発祥の地」という碑がある。国産ビールができたのは横浜と言われているがそれは外国人がつくったということで、日本人が最初につくったのが堂島であった。歴史を知ると地域に愛着が湧くと思う。

（会場）大阪のまちづくりは鴻池新六さんや、五代友厚さん、小林一三さんなど民間が貢献してきた。こういう民間の方たちが大阪を盛り上げていくのはいいことだと思います。

（山田）うめきた2期のトップバッターイベントであった『うめきた楽市楽座』は、戦国大名が城下町を繁栄させるためにとった、新しい商人の自由営業を許した商業政策をイメージした。私たち「民」がもっと関わりやすいにうめきたとなり、関西の経済発展の一人として関わりたいという思いがあったからです。

（会場）他のメンバーの方はどんな大変さがありますか？

（メンバー）山田さんがジェットコースターのように走っていくのをひたすら追いかけていっている感じですが、それが楽しいと思える。うめらくの活動が楽しいが、本業に割く時間は減らないので睡眠時間を削っています。余白を用意してくれたり、失敗にも寛容であるので、自分自身が創造する余裕が持てる。できる範囲で活動しているので大変さは感じていない。

（会場）軍資金はどこからゲットしているんですか。

（山田）イベントをする時、チラシに掲載する広告収入であったり、イベントの参加費などを活動資金としており、助成金・補助金などは一切もらわず自立した運営を行っている。

（会場）住んでいる地域でまち歩きなどのボランティアをしていますが、これからは山田さんのような活動が、もっと必要なんだと感じました。

（山田）まち歩きの先輩としてご指導よろしくお願ひします。